

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 22 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370045

研究課題名(和文) 東アジア仏教の大乗戒根本經典『梵網經』の最新の写本・版本情報に基づく校訂本作成

研究課題名(英文) Making a New Edition of the Scripture of Brahma's Net, the Most Fundamental Text of Mahayana Precepts in East Asian Buddhism

研究代表者

船山 徹 (Funayama, Toru)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：70209154

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：東アジア仏教戒律史に最大の影響を与えた『梵網經』について、その早期の写本と木版大蔵經のうちから特に重要な20種類余りを選定し、次の三作業を遂行した。一、最初期の形態を具体的に知るため、早期の段階で失われ、現行本に残されていない文言があるかどうかを精査した。二、最古の形態を復元するため、写本・木版20種以上を校合した批判校訂本を作成した。三、最古の形態がその後どう変化していったかを分かり易く表示するため、重要な変化を示す写本・木版を6種選び、最古の形と後代の変化の様子が一覧できる形で、新たな視点から『梵網經』の校本を作成した。現在、梵網經の新たな校本の単行本を出版準備中である。

研究成果の概要(英文)：Taking up the Scripture of Brahma's Net (Fanwang jing), the most fundamental text of Mahayana precepts in East Asian Buddhism, the following three works were conducted on the basis of a careful selection of earlier manuscript and woodblock print versions of the text: [1] The examination of the lost passages not found in the extant text; [2] Making a critical edition with collation of over twenty manuscript and woodblock print versions; and [3] making a new type of edition which clearly reveals the earliest form and later transformations of the texts, by choosing the six versions to show each epochal phases of historical changes of the text. Currently a monograph of the new type of edition is under preparation.

研究分野：佛教学

キーワード：梵網經 偽經 疑經 写本 校訂 大蔵經

1. 研究開始当初の背景

『梵網經(ぼんもうきょう)』二巻は東アジア仏教史において極めて重要な価値を有する。この経典は長い歴史の中で広く受容されたが故に、研究の蓄積もあった。特に現代の研究状況を基礎付けたのは望月信亨『仏教経典成立史論』(1946)およびそれに先行する同氏の諸論文であり、望月説は最初の論文出版以来、今日まで約80年が経過している。望月説は、その後、国際的な定説として多くの研究者に受容され、頻繁に引用されながら今に至る、まさに画期的な研究成果であった。

しかし望月説には不備もあった。最大の欠点は、数百年をかけて歴史的に変動した写本・版本に関する書誌学的基礎研究が全く疎かなまま論考が構築されたことである。申請者はこの問題に初めて気づき、2010年に版本の分類に関する論考「梵網經諸本の二系統」を出版し、続いて2011年に論文「梵網經下巻先行説の再検討」を出版し、写本版本問題に注目すると望月説に修正の余地が大きいことと、『梵網經』の原形およびその後の変化については未解明であり、大きな問題が残されていることを指摘した。

かくして本研究は、2010年以來の申請者の新研究を基礎としつつ、さらに、近年に公開され利用可能となった様々な写本および古い木版の『梵網經』を、網羅的かつ注意深く収集し、内容を精査することによって、『梵網經』の原形をさぐり、校訂本を作成することに研究の中心的視点を設定することとした。これによって、『梵網經』の原典研究に金字塔をうち立てた望月説を大幅に刷新し、更なる研究へ道を開くことができる。

2. 研究の目的

『梵網經(ぼんもうきょう)』二巻は東アジア仏教史において極めて重要な価値を有する。この経典は長い歴史の中で広く受容されたが故に、様々なテキスト・バージョンを生んだ。本研究は、近年に公開され利用可能となった写本および古木版の『梵網經』を、網羅的かつ注意深く収集し、内容を精査することによって、『梵網經』の原形をさぐり、校訂本を作成する。

また同時に、従来型の批判校訂版の形式を超える方法論的可能性を探究し、テキストの原形の呈示と共に、数世紀にわたる発展変遷の様子をも明瞭に辿れるような校訂本作成の工夫を目指す。

この作業により、『梵網經』の原典研究に

金字塔をうち立てた望月信亨の説を凡そ80年ぶりに刷新することが可能となり、今後の更なる研究に様々な展開の道を開くことができる。

3. 研究の方法

本研究の主眼は、東アジア仏教史における『梵網經』の重要度とは裏腹に、これまで全くといってよいほど研究されてこなかった『梵網經』の写本と木版印刷版を徹底的に調査し、5世紀中葉におけるその原形と、後の数百年間に行われた変遷の具体的諸相を解明することである。

これを実現するため、3年をかけて、6世紀から12世紀頃までの『梵網經』の写本と版本を可能な限り網羅的に調べ上げ、十分な時間をかけて新たな校訂本の形態を検討し、それを単行本として出版すべく、校訂本の原稿を作成する。

4. 研究成果

(1) 初年度は基礎構築として『梵網經』に関する先行研究および既知の写本・木版情報を整理し、電子データを蓄積した。作成した電子データは開元寺木版梵網經・房山石経梵網經拓本・東京国立博物館蔵梵網經写本等である。また、フランス国家図書館所蔵の梵網經および関連写本を精査するためパリに出張し、所定の目的を達成した。

(2) 二年度は校本作成の中核作業として、各種大蔵經における文字の異同を精査し、作業結果をすべて電子ファイルに入力し、同時に、校本の具体的な形式(各ページの書式・レイアウト)を策定した。写本・木版に基づく校訂作業を進めた。これまで研究のなかった高麗蔵初雕本についても調査し、現時点での成果を論文「『梵網經』の初期の形態をめぐって」として公表した。

(3) 最終年度は、『梵網經』の早期の形態を知る上で不可欠の写本・木版20数種の校勘を行った。電子データとして、京都国立博物館蔵梵網經下巻写本・高麗蔵初雕本・磧砂大蔵經木版本その他である。また、写本および関連文物資料蒐集のため、ロンドンとプリンストンに出張し、所定の目的を達成した。

(4) 内容の重要性に特に注目して校勘に使用した写本は中国国家図書館蔵敦煌写本1点、ペリオ将来敦煌写本1点、書道博物館蔵写本1点、京都国立博物館蔵写本1点、東京国立博物館蔵写本1点、房山石経本3点、木版大蔵經本8本その他である。以上についてさらに詳細を述べると、まず、ペリオ将来

敦煌写本 1 点とは Pelliot chinois no. 2196 『出家人受菩薩戒法卷第一』の末尾に引用される梵網經の重要箇所（十波羅夷と称されるもの）であり、この写本は南朝梁において天監 18 年（西暦 519 年）五月に武帝の勅命によって書写されたものであることが奥書から知られる。これは『梵網經』それ自体の写本ではないが、『梵網經』の經文（經典中の文言）を逐語的に引用する最古の写本として大きな価値をもつ。次に、中国国家図書館蔵敦煌写本 1 点は BD01972.2 (収 072) であり、書道博物館蔵写本 1 点とは中村不折旧蔵本である。この両者は『梵網經』諸写本の中で現在知りうる最古形を示している。京都国立博物館蔵写本 1 点および東京国立博物館蔵写本 1 点は、ともに重要文化財に指定されており、特に前者は天平勝宝九載（西暦 757 年）に日本で書写されたものである。両者とも『梵網經』の最古形が変化し始める初期の様相を示す写本として貴重である。これらに加えて、房山石經本 3 点や諸々の木版大藏經中に収める『梵網經』の後代の版本を精査することを通じて、『梵網經』の最初期の形状とその後数世紀に及ぶ変化の過程、として現在頻りに用いられる諸本との関係を知ることができる。

(5) さらに校本作成作業の成果を国際会議で英語で公表した。高麗蔵初雕本梵網經に対する世界で初めての精査結果として論文 "The Fanwang jing (Scripture of Brahma's Net) in the First Edition of the Korean Canon: A Preliminary Survey" を出版した。

(6) また、目下出版予定の新たな校本作りの作業を整理し、結論の要点を示す会議報告として "Copying with Too Many Variants: A New Type of Edition of the Scripture of Brahma's Net" をアメリカのプリンストン大学で行った。これに対しては、中国日本の古写經校訂を行う専門家たちやインドの新出ガンダーラ写本の校訂を行っている若手研究者たちからコメントをもらい、総じて予想以上の賛同を得ることができた。

(7) プリンストン大学で行われた国際会議で報告した内容の要点は次の通りである。中国日本の『梵網經』古写本・木版大藏經諸本に見られる特徴として、異本（異読、文字のヴァリエント）が異常なほど多いことを經典に即して実際に示し、そして、そのような場合に、どのような校本を作成すればテキスト初期の形と後代の様々な歴史的変遷の諸相を分かり易く、肯定的に評価しながら示すことができるかという点を今後の文献学的課題として問題提起し、その一つの可能な回答を『梵網經』に即して示し、その校本サンプルを示した。

(8) 本研究の最終的成果として『梵網經』

の新たな校本を単行本として出版する準備を進めている。各時代を代表する写本版本として特に注目するのは、上記 (4) に記した写本版本類である。各本の内容ごとに短い段落に区切り、それらを見開き 2 頁毎に記し、諸本の相違する語句を一目瞭然に分かるように工夫する。さらに異なる箇所には洋数字を付し、諸本のそれぞれの関係箇所を示すとともに、各本で相違する具体的語句に下線を施す。こらら洋数字番号と下線表示によって、見開き 2 頁に示される各写本版本の文字の違いを視覚的・直感的に理解できる形で校本を作成する。

(9) 諸本の間で相違する語句の数は 600 箇所を超える。これは夥しい数であり、これほど膨大な数の異文（異読, variants）を有する仏教文献は他に存在しないといってもよいほどである。たとえば『梵網經』とほぼ同じ長さの他の仏教漢訳文献の場合、『勝鬘經』という漢訳經典の異文は 80 箇所弱である。『大般若經』の冒頭部分から『梵網經』と同じ長さの箇所に存在する異文を数えると、わずか 24 箇所ほどである。これに対して従来用いられてきた大正新脩大藏經版の『梵網經』の異文の数は 300 箇所強である。この数自体、本經典の異文が例外的に多いことを示すに十分であるが、本研究成果を通じて従来無視されてきた写本版本を考慮して判明した梵網經異文の数は更に二倍となり、600 箇所を超える。詳細は省略するが、この一例からだけでも、いかに『梵網經』の原形とその後数世紀にわたる語句変化の多様性と複雑性を知ることができよう。

(10) 現在出版に向けて最終作業を進めている新校本は、これまで 80 年間支持され依拠されてきた望月信亨の研究およびその後の研究史を大幅に書きかえる文献資料を呈示するものである。その成果が近く出版されれば、今後の仏教文献学研究、とくに西洋型の批判校訂本と東アジアの伝統的校勘学を長所と短所を再検討し、新たな形態の校訂本の在り方を考える上で、今後の文献研究に及ぼす影響は大きいと予想される。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計 11 件)

船山 徹, 『梵網經』の初期の形態をめぐって, 東アジア仏教研究, 査読有, 12 号, 2014, 3-25

船山 徹, 長耳三蔵と『耶舎伝』 ナレンドラヤシャスとの関わり, 仏教史学研究, 依頼原稿, 56-2, 2014, 32-53

Funayama Toru, Chinese Translations of pratyaksa, *A Distant Mirror: Articulating Indic Ideas in Sixth and Seventh Century Chinese Buddhism* (edited by Chen-kuo Lin and Michael Radich), Hamburg University Press, 2014, 33-61

Funayama Toru, A Reexamination of the Procedures for Translating Buddhist Texts into Chinese as Recorded in "Sutra-Translating Rituals" in the Fo-tsu T'ung-chi 43, *Transactions of the International Conference of Eastern Studies*, 査読無, 59, 2014, 75-75

船山 徹, 梁代の仏教 学術としての二三の特徴, 学問のかたち もう一つの中国思想史(小南一郎編), 汲古書院, 査読有, 2014, 97-126

Funayama Toru, The *Fanwang jing* (*Scripture of Brahma's Net*) in the First Edition of the Korean Canon: A Preliminary Survey, *Zinbun (Annals of The Institute for Research in Humanities, Kyoto University)*, 査読有, No. 45, 2015, 1-25

Funayama Toru, Chinese Buddhist Apocrypha, *Brill's Encyclopedia of Buddhism* (edited by Jonathan A. Silk et al., Leiden: Brill), 査読有, Vol. 1, 2015, 283-291

Funayama Toru, Buddhism during the Liang Dynasty: Some of Its Characteristics as a Form of Scholarship, *Acta Asiatica*, 査読有, 109, 2015, 71-100

船山 徹, 中国仏教の経典読誦法 転読と梵唄はインド伝来か, 宗教実践における声と文字(村上忠良編), 査読無, 2015, 93-103

船山 徹, 仏典漢訳の分業体制 天息災「訳経儀式」の再検討, 仏教文明の転回と表現(新川登亀男編), 勉誠出版, 査読無, 2015, 80-104

船山 徹, 思想史のための文献学 『梵網経』の研究史と今後の展望, 東洋学研究, 査読無, 53, 2016, 10-11

[学会発表](計6件)

船山 徹, 『梵網経』下巻の最初期の形態をめぐって, 東アジア仏教研究会, 駒澤大学大学会館(東京都), 2013年12月7日

Funayama Toru, Reflection of Orthodoxy? Connections and

Disconnections between Indian and Chinese Buddhism during the 4th-9th Centuries, Chinese Buddhism and the Scholarship of Erik Zürcher: A Conference, Leiden University (The Netherlands), 2014年2月13日, 招待有

Funayama Toru, A Hiatus in the History of Chinese Buddhist Translations: What Happened in the Second Half of the Fifth Century, Lecture Series of the Center for Buddhist Studies at UC Berkeley (San Francisco, U.S.A.), 2014年3月3日, 招待講演

船山 徹, 西域出身の訳経僧 特に5~6世紀の経典伝来ルートを中心に, 龍谷大学アジア仏教研究センター中央アジア研究班, 龍谷大学大宮校舎(京都市)2014年6月2日, 招待有

船山 徹, 思想史のための文献学 『梵網経』の研究史と今後の展望, 東洋大学東洋研究所, 研究所プロジェクト・公開講演会, 東洋大学白山キャンパス(東京都), 2015年9月26日, 招待講演

Funayama Toru, Copying with Too Many Variants: A New Type of Edition of the Scripture of Brahma's Net, International Conference on Buddhist Manuscript Cultures, Princeton University (U.S.A.), 2016年1月15日, 招待有

[図書](計1件)

船山 徹(単著), 岩波書店, 『仏典はどう漢訳されたのか スートラが経典になるとき』, 2013, 314

[産業財産権]

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:

取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

「鈴木学術財団特別賞」(船山徹『仏典はどう漢訳されたのか スートラが経典になる
とき』岩波書店，2013 に対する賞)

6．研究組織

(1)研究代表者

船山 徹 (FUNAYAMA, Toru)
京都大学・人文科学研究所・教授
研究者番号： 70209154

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし